

垂水市立垂水中央中学校 第3学年

【授業実践のポイント】

- ① 自分の考えを構築したり多様な考えに触れたりさせる手立てとして、タブレットや付箋を活用し、自分の考えをもたせた上でグループで友達と意見を交流させる工夫をした。
- ② 対話的な活動を充実させる手立てとして、タブレットやワークシートを活用し、考えたり対話したりする視点を具体的にイメージさせるとともに、考えの可視化を図る工夫を行った。
- ③ 道徳的価値を自覚化させる手立てとして、他者の意見を踏まえながら、自分の行動を振り返らせるとともに、自分へのメッセージを書かせる工夫を行った。

1 主題名 「前向きな生き方」[A（3） 向上心、個性の伸長]

(1) 教材名 「新しい夏のはじまり」（日本文教出版「中学道徳 あすを生きる3」）

(2) 本時のねらい

グループでの対話的な活動を通して、自己を見つめ、これまでの自分を冷静かつ客観的に振り返るとともに、経験を生かして自分らしく前向きな行動や生き方をしようとする態度を育てる。

2 授業の展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 アンケート結果を知る。 うまうまいかなかったときに、次につなげるために大切なことは何だろうか。	7分	○ アンケート結果を提示し、学習への意欲を高めるとともに、本時のねらいへつなげる意識をもたせる。 (Microsoft Forms) ○ 亜樹の気持ちが分かる箇所に下線を引かせる。
	2 「新しい夏のはじまり」の範読を聞く。		
展開	3 亜樹の気持ちを考える。 T ひとり体育館に立ちつくしていた亜樹は、どんな気持ちだっただろうか。	3分	○ 全体に問い掛け、発表させる。
	4 佐々木の言葉や亜樹の行動から、亜樹の気持ちを考える。 T 「無駄じゃなかったよな。」 「レギュラーになれなくても、勝てなくても、いいんだよな？」と発言する佐々木に対して、亜樹はどのような気持ちになっただろうか。	18分	○ 亜樹の言葉や行動から気持ちの変化に気付かせる。 ○ 付箋に気持ちを書かせ、ワークシートに貼らせる。 ○ 付箋を貼ったワークシートを写真に撮り送信させる。(ロイロノート)
	5 自分が上手くいかなかったときに、次につなげるために大切なことは何かを考える。	20分	○ タブレットを用いて考えを記入させる。(ロイロノート)
	6 自分へのメッセージを書く。		○ カード(厚紙)に記入させる。
終末	7 書いたメッセージや説話から振り返りをする。 T 上手くいかないことがあっても、次につなげるために大切なことは何だろうか。	2分	○ これからの3年生としての取組(進路等)に向けて意欲をもたせる。

新しい夏のはじまり

学習課題

うまくいかなかったときに、次につなげるために大切なことは何だろうか。

亜樹のイラスト

気持ちの変化を整理する。

○ 亜樹の気持ち

マイナス面

・ 無駄だった。
・ 悔しい。
・ 何も考えたくない。

プラス面

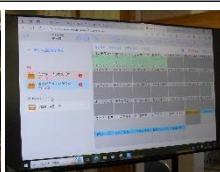
・ 努力した過程が大事だった。
・ 卓球の楽しさを味わった。

○ 次につなげるために (ロイロノートで提示する)

○ 自分へメッセージ

(板書)

代表的な意見を示す。



思考の時間を確保するために、付箋とワークシートを併用し、整理したものを撮影させて投稿させた。(ポイント①②)

グループ内で自分の考えを紹介したり、他者の考えを聞いたりする中で、自分の考えを修正・整理し、タブレットにまとめたことを記入させた。(ロイロノート)(ポイント①②)

「次につなげるために大切なことは何か」について、特徴的な考えを取り上げて共有した。(ポイント③)

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 事前のアンケート結果や地区総合体育大会での経験を踏まえて考えさせることで、道徳的価値を自分のこととして捉えさせ、道徳的価値を実現しようとする意志を高めることができた。
- イ グループ(4人組)での活動の際に、考える視点や付箋の活用方法を事前に提示することによって、対話活動を活性化することができた。
- ウ ICT機器(タブレット)と紙媒体の併用により、考える時間を確保して意見を出しやすくする雰囲気をつくり出すとともに、生徒の思考を広げたり深めたりすることができた。

(2) 課題

- ア 生徒一人一人が道徳的価値を理解するとともに、自分の事として捉えられるように、分かりやすく具体的な発問となるよう工夫をしていきたい。また、少数意見にも着目し、「誰の意見を聞きたい」という言葉掛けを工夫していきたい。
- イ 思考を更に広げたり深めたりするために、ICT機器の積極的な活用法や多様なシンキングツールの効果的な活用法を探っていきたい。
- ウ 振り返りの場面が、単純な感想発表にならないように、授業の中で「自分の考えが変わったか」や「どのようなことを考えたか」など生き方について自覚を深められるように工夫をしていきたい。